[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月 20日

【評価実施概要】

	事業所番号	(※評価機関で記入)4671000273		
	法人名	医療法人 微笑会		
	事業所名	グループホーム えがお		
	所在地	指宿市十町2392-2 (電 話) 0993-22-4090		

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年4月20日

【情報提供票より】(21年 3月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13	年 4 月 1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	0 人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

Z+ Mar 排 生	木造平屋ALC張り 造り				
建物博垣 一	1 階建ての	1階~	1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
家賃(平均月額)	30,	000 円	その他の)経費(月額)	実費	
敷 金				無		
保証金の有無			有りの)場合	有/無	
(入居一時金含む)		無	償却(の有無	有 / 無	
	朝食	200	円	昼食	400	円
食材料費	夕食	400	円	おやつ	0	円
	または1	日当たり	1,000	円		

(4) 利用者の概要(3月20日現在)

利用	者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要允	介護1	1	名	要介護2	2	名
要允	介護3	2	名	要介護4	2	名
要允	介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢	平均	86 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田畑クリニック、	今林整形外科、	宮崎歯科医院、	岩下眼科医院
---------	----------	---------	---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

指宿市役所より徒歩5分のクリニック・デイケアセンターとともにホームがあり、併設施設との連携は医療面や夜間緊急時対応への安心感となっている。地域との交流、連携では、町内会に入会するとともに地域のこども会に遊びにきてもらうなど、楽しむ機会を作る積極的な取り組みが始まっている。また、ベテラン職員のアドバイスと管理者、ケアマネジャーの情報伝達が適度に行われ、コミュニケーションがうまく取れている。職員の温かい声かけを聞き、利用者の笑顔やいきいきした様子を見ると、それは質の高いサービスとなって利用者の穏やかな生活へとつながっているのではないかとの印象を持った。

【重点項目への取り組み状況】

目

重

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)

昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミー 重 ティングで改善事項についてできることから改善するように話し合った。評価結 点 果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。

今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

自己評価は管理者と職員が項目ごとに話し合った結果をまとめている。その 作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会に なったと認識している。

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)

点 項 利用者・家族・地域有識者・公民館館長・市などからの参加があり、議事録よ り、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営 の に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。

| 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)

苦情相談窓口については玄関に掲示し、利用開始時には文書により家族に知らせている。また、職員が苦情や要望等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

町内会へ入会し催事に積極的に参加しており、近隣の子供会、老人会等との 交流を図っている。隣接する病院に通院する地域の方が日常的にホームに立 ち寄ってもらえる関係もできている。

2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です) 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)			
I . 理	I. 理念に基づく運営							
1.	理念と	共有						
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割が意識できるように職員が話し合い作り上げた理念がある。					
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、日々の申し送りにおいて復唱 し毎月のミーティングにて理念の具体的な実践について 話し合っている。					
2. 均	也域との)支えあい						
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	町内会へ入会し催事に積極的に参加しており、近隣の子供会、老人会等との交流を図っている。隣接する病院に通院する地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。					
3. 型	里念を実	『践するための制度の理解と活用						
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合った。評価結果は誰もが 閲覧できるように玄関に設置されている。					
5	8	連営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合	利用者・家族・地域有識者・公民館館長・市などからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、 出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそう としている事業所の姿勢がうかがえる。					

鹿児島県 えがお 平成21年5月21日

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9		頻繁に市担当窓口や包括支援センターなどへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. Đ	里念を実	ミ践するための体制			
7	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、家族が遠方の場合書面で報告され、家族が近隣の場合は訪問時に報告されており、個々にあわせた報告がなされている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。		
8	13		苦情相談窓口については玄関に掲示し、利用開始時には文書により家族に知らせている。また、職員が苦情や要望等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、お便りの中で紹介するなど利用者へのダメージを防いでいる。		
10	19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける	昨年の外部評価で取り組みを期待したい項目にあがっている。施設外研修については職員に紹介し、受講費用は事業所が負担するなどの配慮がなされている。ただ、施設内での研修については計画的な研修体系が整っているとは言いがたい。	0	職員が段階的に研修が行えるよう指針や計画の整備がのぞまれる。
11	20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流 する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相 互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で研修・交流会へ参加している。認知症介護実践者研修の実習の受け入れ等が行われているが、他のホームへ見学等の交流が行われているとは言いがたい。	0	法人内のグループホーム以外のホームと職員の視察研修 も含め、交流を深めることがのぞまれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
Ⅱ.3	Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 村	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
12	26	ために サービスをいきなり開始するのではなく	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔馴染みの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。						
2. 兼	折たな関	『係づくりとこれまでの関係継続への支援							
13	27	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人 から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の野菜や花を職員と利用者が一緒に栽培したりする中で共に過ごす関係を築いている。ラジオ体操や音楽活動、生け花も頻繁に行われている。訪問時も一緒に調理の下ごしらえや音楽活動する風景が見られた。						
Ш.	その人	、らしい暮らしを続けるためのケアマネジ.	メント						
1	-人ひと	⊆りの把握							
14	20	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用開始時には本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などで職員間で共有している。						
2. 7	人が。	- より良く暮らし続けるための介護計画の作成と	:見直し						
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映した介護計 画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、利用者・家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。主治医とは書面で丁寧な連絡が取れている。						
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合	介護計画について毎月モニタリングを行い、変化の兆しがないか見直し、まとめている。利用者の状況に変化があり介護計画の見直しが必要な時には、ミーティングを開いて計画の見直しを行っている。						

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
3. ≸	3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	利用者の通院介助や外出・外泊支援、家族宿泊時の 食事を提供しており、利用者の入院中の面会や早期退 院に向けての支援など臨機応変な対応をしている。また 健康フェスタでは認知症相談コーナーを設けるなど事 業所として地域へ貢献している。						
4. 4	と人が。	より良く暮らし続けるための地域資源との協働	h						
18	43		主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応がなされ、 その上で協力医療機関の支援をもらっている。						
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	職員で作成した重度化や終末期に対する対応指針を 定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も 本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図って いる。						
		らしい暮らしの支援 とりの尊重							
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。 利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。						
21	52	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは本人の体調などを配慮し、外出やリハビリなど本人の意向を確かめながら決めている。						

鹿児島県 えがお

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)	その人	らしい暮らしを続けるための基本的な生活の	支援		
22	54		嗜好調査で食事の希望を聞いたり、食欲を引き出す工夫をしたりしている。また旬の食材を利用し、下ごしらえを一緒に行うことで食への興味を持ってもらう工夫をしている。ただ職員と利用者のテーブルが離れており、一緒に楽しみながら食事をしているとはいいがたい。	0	食事は利用者の最大の楽しみでもあり、声かけ見守り等の 観点からも利用者、職員が一緒に楽しみながら食事できる 体制づくりがのぞまれる。
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。 入浴を拒否する場合は、無理強いせずに時間を変える など、個別に対応し、一人ひとりの時間をゆっくりととり入 浴の楽しみを感じてもらえるよう配慮している。		
(3)-	その人	らしい暮らしを続けるための社会的な生活の	支援		
24	59	張り合いや喜ひのある日々を過ごせるように、一	利用者は、季節を感じるための畑作業・家事や趣味(絵画、カルタ取り)を楽しんだり、お手伝いをすることでそれぞれの役割を見出し参加する喜びを感じている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	本人の気分や天候に応じて、散歩などで日常的に屋外に出るように支援している。 定期的にドライブや地域行事への参加を支援するなど 外出の機会を設けている		
(4)	安心と	- 安全を支える支援			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しているが、家族・ 職員と身体拘束廃止委員会で話し合い同意を得たうえ で、利用者の安全確保のため、玄関等に施錠をしてい る。	0	職員全員が鍵をかけない暮らしの大切さについて再度認識し、常に利用者の状態を把握しながら見守りを行うことがのぞまれる。また、家族への説明、地域への情報提供の協力を依頼するなど鍵をかけない自由な暮らしを提供するための工夫が求められる。
27	71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者の協力を得ている。ただ、非常時の備蓄は十分とは言いがたく、居室の窓が腰窓になっており、避難に困難かと思われる。	0	居室からの避難がスムーズに行われる体制づくりと非常時の食料、飲料水の備蓄の管理がのぞまれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	ー日1400~1600キロカロリーの食事提供と水分 1000ccを目安にしており、食事の量は個人別の記録に 全員記録している。排泄状態も参考にしながら健康状態が把握され、より快適な生活が送れるようにケアに活かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には花が飾られ、玄関脇のソファーやリビングでは思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、台所の料理の様子が感じられ五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	利用者の好みで個人のものが持ち込まれている部屋も あれば、シンプルな部屋もある。部屋には写真やお便り などが飾られ居心地よく過ごすことができるような配慮 が感じられる。		